

## RR-15「岩手におけるホームスパン文化を継承するための方策に関する研究」

課題提案者：有限責任事業組合 まちの編集室

研究代表者：盛岡短期大学部 菊池直子

研究チーム員：佐藤恭子（盛岡短期大学部）、鈴木宏子、木村敦子、赤坂環（まちの編集室）

## &lt;要 旨&gt;

本研究は、岩手のホームスパン文化を次世代に継承するための方策を探ることを目的とし、ホームスパン工房で作業等を体験した若者が「衣食住で考える私のほしいホームスパン」を提案するワークショップを実施した。加えて、「ホームスパンmeeting」を一般公開で開催し、体験者によるプレゼンテーション、およびホームスパン工房の作家・職人をパネリスとする座談会（パネルディスカッション）を実施した。また、これまで不明な点の多かったホームスパン指導者の及川全三（1892～1985）に関する資料を考証し、岩手におけるホームスパン文化の歴史的な一面を明らかにした。

## 1 研究の概要（背景・目的等）

岩手のホームスパンは、大正期に農家の副業として普及し、昭和期に民芸運動との結びつきによって美的価値が高められ、敗戦後の復興とともに地場産業にまで発展したものである<sup>1)</sup>。現在も受け継がれるホームスパンであるが、地元でも認知度が低下し、特に若い世代との乖離が著しくなっている。ホームスパン文化を次世代に継承するためには、若い世代へのアプローチ等が必要と考え、その方策を探ることを目的とした。また、これまで曖昧で不明な点の多かったホームスパン指導者の及川全三（1892～1985年）に関する資料を調査し、岩手におけるホームスパン文化の歴史的な一面を明らかにすることを目的とした。

## 2 研究の内容（方法・経過等）

## 2.1 ワークショップおよび「ホームスパンmeeting」

ワークショップおよび「ホームスパンmeeting」の方法の概要を表1に示す。図1は、工房で体験する若者の様子を示している。また、研究方法を総括し、工房の意向を把握するため、2017年3月に7工房（体験受け入れ6工房を含む）にアンケート調査を実施した。質問は、①ワークショップと「ホームスパンmeeting」の振り返り、②10～20年後の工房について、③工房間や作家・職人のよこのつながりについての3点である。回答は自由記述とした。

表1 方法の概要

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| ワークショップ<br>2016年9月                    | 目 的：若者が工房での体験をとおしてホームスパンを理解し、「衣食住で考える私のほしいホームスパン」を提案する<br>体験者：18～36歳の17名（9班に組分け）<br>体験受け入れ工房：盛岡市と近郊の6工房<br>体験後：レポート作成⇒工房にフィードバック |
| 「ホームスパンmeeting」<br>（一般公開）<br>2016年12月 | 目 的：産学連携で岩手のホームスパンを考える<br>第一部：体験者9班によるプレゼンテーション<br>第二部：作家・職人をパネリストとするホームスパン座談会（パネルディスカッション）                                      |



図1 ワークショップ（工房にて体験）

## 2.2 ホームスパン文化の歴史的な調査

岩手に継承される工芸のホームスパンは、及川全三が民芸運動を実践する中で礎を築いてきたものである。本研究では、及川の植物染色に関する資料や工芸に対する考え方を綴った未完の自筆原稿に焦点をあて調査した。

## 3 これまで得られた研究の成果

## 3.1 ワークショップ

若者から提案されたホームスパンを表2に示す。青色の網掛けは、携帯ケースやポーチ等の小物雑貨、つけ襟やアクセサリ等の服飾小物である。黄色の網掛けは、親から子への祝い品、マフラー受注会とパーソナルカラー診断の組み合わせ等の企画品である。その他、ペット衣服や自動車内装品、ファブリックパネル等の若者目線の製品も提案された。

ホームスパンは、従来からマフラー・ショール、コート・ジャケット服地が主であるが、若者にとってのホームスパンは、衣服素材というよりも小物として用いる素材、特別な意味をもたせる素材であることが認められる。これは、紡毛織物そのものが、若者の日常着から離れ、衣服以外の付加価値を生み出す素材になっていることの表れと考えられる。

表2 若者が提案するホームスパン

| 体験者<br>(9月) | 「衣食住で考える私のほしいホームスパン」 |                  |                         |                    |               |
|-------------|----------------------|------------------|-------------------------|--------------------|---------------|
| A           | 親から子への<br>プレゼント      | 曲げわっぱの<br>弁当包み   | ブックカバー                  | ガウン                |               |
| B           | 親から子への<br>プレゼント      | 誕生祝のおくみ<br>兼授乳ケー | テーマ、コンセプト決<br>めた販売      |                    |               |
| C           | ポーチ                  | ティッシュカバー         | コースター                   | マフラー               |               |
| D           | ランチョンマット             | コースター            | ポケット付きス<br>トール          | 北欧テキスタイルの<br>ような柄物 |               |
| E           | ポーチ                  | 携帯ケース            | アクセサリ                   | 自動車内装品             | ペット衣服         |
| F           | ペンダントライト<br>のセード     | ファブリックパネ<br>ル    |                         |                    |               |
| G           | スカーフ                 | つけ襟              | 携帯ケース                   | 小物                 | アクセサリ         |
|             | ランチョンマット             | コースター            | クッションカバー                | ブックカバー             | カーテン          |
| H           | パソコンケース              | 携帯ケース            | めがねケース                  | コインケース             | 衣服のポケット<br>部分 |
|             | ポーチ                  | つけ襟              | マフラー受注会 +<br>パーソナルカラー診断 | 出産、入学祝い            |               |
| I           | キーケース                | マフラー             | ストール                    | ワンピース              | 玄関マット         |
|             | 小物類                  |                  | 販売企画品                   |                    |               |

### 3.2 「ホームスパンmeeting」

図2に示す第一部は、体験者によるプレゼンテーションである。表2の提案に対し、工房からは「記念のときに大切な人に大切なものを贈るとするのはよい考え」、「小物のような“ちょこっとホームスパン”の可能性は大事」、「実際に触れてもらうことがホームスパンを知ってもらうことの第一」等、好意的なコメントが述べられた。

第二部の座談会では、ホームスパンの認知度が低い問題点から話し合い、その事由として実際に触れる機会が極めて限られることがあげられた。また、各地の織物、例えば結城紬、芭蕉布（沖縄）等に比べ、ホームスパンという横文字が一般の人にわかりにくいことが指摘された。ホームスパンの用語のPRが必要といえる。最近の動向としては、全国各地でクラフトの市が開かれるようになってきており、岩手よりも他県の方が僅かに知れ渡っている印象があるという。

ホームスパンへの適正な評価については、肌触りを実感したり身につけたりしている人にとっては価値あるものとして伝わるが、知らない人にとっては値段が高いというだけで価値が伝わらないという意見が述べられた。フロアからは、手紡ぎで手間をかけているから値段が高いということではなく、身につけてみて価値がわかるという意見が述べられた。

ホームスパン文化を次世代に継承するためには、ホームスパンに触れる機会が重要であり、その機会を若い世代に広報する必要がある。しかしながら、製作に追われる工房は、広報活動の余力を持ちえない現状にあり、行政による広報活動の支援が必要と考えられる。



第一部  
第二部  
図2 「ホームスパンmeeting」

### 3.3 工房へのアンケート調査

ワークショップと「ホームスパンmeeting」の振り返

りでは、若い人に知ってもらえたよい機会という回答が多く、ワークショップの有効性が確認された。その他、体験時間が短いという回答や、自工房の体験プランを見直す機会になったという副次的効果についての回答も得られた。また、半数以上の工房は、「ホームスパンmeeting」のプラス面に他工房との交流を挙げていた。交流機会の潜在ニーズが認められる。

10～20年後については、先が見通せないという回答が複数あり、生業としての厳しさが窺えたが、将来は新しい勤務スタイルを確立し手仕事で一定収入の得られる場としたいという前向きな回答もみられた。後継者が不在という工房では、「工房を残したり伝えたりすることは考えていない」という回答と、「教室の生徒に技法を受け継いでほしい、続けていけるうちは作品を発表し続け、ホームスパンの良さを伝える活動をしたい」という回答があり、工房の事情によって対極する意向がみられた。若い後継者がいる工房では、新しいホームスパンを期待していることや、アドバイスや発表の場を提供したいこと等、若手育成の回答が得られた。

工房間や作家・職人のよこのつながりについては、必要とする回答が複数ある一方で、必要としない回答や、かつての繊維専門の研究機関を中核とするつながりを望む回答も得られた。また、密なつながりは必要ないが「ホームスパンmeeting」や合同工房展のようなイベント等があればよいという回答も得られた。目的や役割を明確にした交流の機会は、有意義といえる。また、つながりを必要と回答した工房間から、情報交流をスタートさせることも将来に向けての有効な手立てと考えられる。

### 3.4 ホームスパン文化の歴史的な調査

及川の染色等に関わる調査の成果は、「及川全三の植物染色とホームスパン」として岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集第19号に公表した<sup>2)</sup>。詳細は、文献を参照されたい。

## 4 今後の具体的な展開

今後は、目的を明確にした工房間の交流の場をつくることが重要と考えられる。まちの編集室の継続的な企画、広報活動に支えられるところが大きであるが、工房の意向を踏まえ、行政によるバックアップが得られるような働きかけに展開したいと考えている。また、ホームスパンの認知度を効果的に上げるため、染織クラフトへの関心の高い若者に対象を絞るワークショップを展開したいと考えている。

## 5 その他（参考文献・謝辞等）

### 参考文献

- 1) LLPまちの編集室『てくり別冊 岩手のホームスパン』(2015)
- 2) 菊池直子「及川全三の植物染色とホームスパン」『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集第19号』17-23 (2017)

### 謝辞

本研究を進めるにあたり、蟻川工房、中村工房、みちのくあかね会、植田紀子織物工房の皆様、田中祐子氏、森由美子氏、舞良雅子氏にお世話になりました。深く感謝いたします。